

13 当院における透析患者のASOの現状と看護

JA 長野厚生連篠ノ井総合病院

人工腎センター 和田怜子 畔上香織 赤塩恵子 松橋ひろ子
臨床工学科 宮寄大介 塩沢 勉
腎臓内科 田村克彦 長澤正樹

1-はじめに

近年、透析患者の高齢化や糖尿病性腎症による透析導入患者の増加に伴い、動脈硬化症を有する患者が増加している。

今回、当院における血液透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症（以下ASO）の現状とASOに対する理解度を把握し患者指導について検討した。

2-対象

1)血液透析患者 153名

ABI・PWV測定可能な患者 153名

男性 91名 (DM25名)、女性 62名 (DM13名)

平均年齢 62.1 才、平均透析歴 11.6年

2)透析看護師 25名

3-方法

1)Ankle Brachial Index (以下ABI) 及び、Pulse Wave Velocity (以下PWV) 測定の実施

(日本コーリンForm使用)

*ABI=足関節最高血圧/上腕最高血圧

(正常範囲 0.9~1.3)

調査期間：H16年4月～H17年3月

2)血液透析患者へのASOに関する聞き取り調査の実施。

【質問項目】

- ・ABI 検査で何を見ているのか知っているか
- ・ASOという病気を知っているか
- ・ASOを予防する為に何かしているか など

3)透析看護師へのASOに関するアンケート調査の実施。

【質問項目】

- ・ASOの症状
- ・ASOの分類
- ・ASOのケアのポイント
- ・予防の方法
- ・普段の看護業務の中でASOについて特別に観察しているか

4-結果

結果①

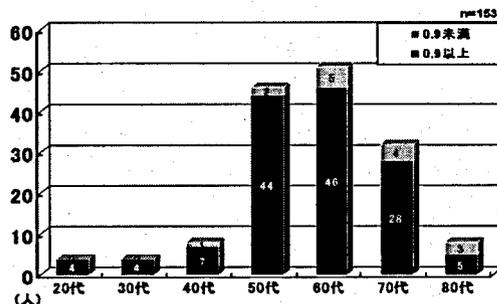


図1 ABI値の年代別比較 n=153

結果①より、全対象患者の9.8%がABI 0.9未満を示していた。また、年代が高くなるほどABI異常値を示す割合が増加していた。(図1)

和田怜子 JA長野厚生連篠ノ井総合病院 人工腎センター

〒388-8004 長野市篠ノ井会 666-1 Tel.026-292-2261

結果②

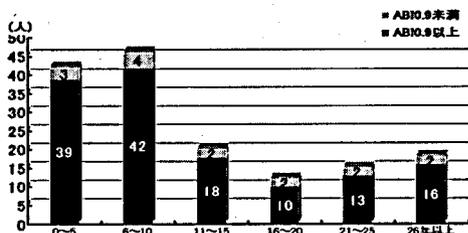


図2 ABI値の透析歴別比較 n=153

結果②より、透析歴に関係なく、ABI 0.9未満の患者が存在している。

透析歴10年以上の患者のABI 0.9未満は12.3%であった。透析歴が10年未満は8%であった。(図2)

結果③

表1 ABI0.9未満の15症例

年齢(歳)	性	透析歴	原疾患	合併症	症状	治療内容
48	男	30年	CCN		あり	ステント留置
54	男	16年	CGN		あり	ステント留置
56	男	21年	CGN		あり	バイパス
60	女	10年	DM	心筋梗塞	なし	カテーテル治療
68	男	14年	PCK		あり	血管造影
69	女	24年	CGN		あり	血管造影
70	男	4年	DM	心筋梗塞	なし	血管造影
81	男	1年	PCK	心筋梗塞	なし	ステント留置
84	男	3年	PCK		あり	下肢切断
64	男	21年	CGN		あり	死亡
69	男	20年	CGN		なし	検討中
73	女	14年	DM	服用症候群	なし	検討中
75	女	8年	DM	脳梗塞	不明	検討中
79	女	6年	DM	脳梗塞	不明	足裕進行中
84	女	5年	DM	脳梗塞	不明	検討中

結果③はABI 0.9未満で外科的治療及びインターベンションを行った患者15名で、そのうち外科的治療及びインターベンションを行った患者は9名であ

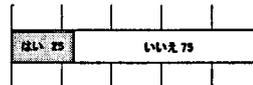
った。透析歴10年以上の患者では6名、10年未満でも3名に処置が必要であった。治療方針検討中の患者は6名であり、6名中3名は脳梗塞を合併し、要介護患者や認知症を有していた。(表1)

結果④

Q. ABIが何の検査か知っていますか?



Q. ASOを氣にかけていますか?



Q. 足を見えていますか?

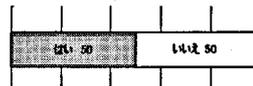
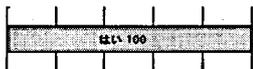


図3透析患者へのASOに関する聞き取り調査 n=153

結果④より、ABIが何の検査か知っている患者は83%、ASOを氣にかけている患者は25%だった。足を見えている患者は50%だった。(図3)

結果⑤

Q. ASOの症状を理解していますか?



Q. ABIの検査結果を確認していますか?



Q. 下肢の観察の重要性を理解して観察を行っていますか?

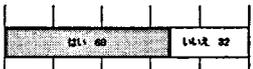


図4透析看護師に対するアンケート調査 n=25

結果⑤より透析室看護師は100%ASOの症状を理解していた。

79%の看護師がABIの検査結果の確認をしていた。下肢の観察の重要性を理解して観察を行っていますかに対しては68%の看護師がはいと回答した。(図4)

5-考察

図2より、透析歴10年以上の患者のABI 0.9未満は12.3%、透析歴が10年未満は8%だった。近年高齢者の透析導入が多い為、透析期間が短くてもABI異常値の患者が存在するものと考えられる。

ABI 0.9未満でASOと診断された患者は15名で、そのうち、ASOの症状がなく外科的処置が必要性を有する患者は3名であった。また、4名は脳梗塞を合併し、要介護患者や認知症を有しており、症状を訴えられない状態であった。無症状や合併症等で症状の訴えられない患者に対するABI測定は、ASOの早期発見に有用と思われる。

ABIの検査の目的を理解している患者は82.8%で、ASOについて意識している患者は25.4%だった。このことから、ABIの目的を理解していても実際の予防行動にはつなげられていないことがわかった。波井はASOについて「重症化して壊疽化すれば下肢切断が必要となるなど、足病変はQOLを低下させる要因となる」と述べている。今後、患者がASOを理解したうえで予防行動につながるよう看護師の働きかけが重要となる。

ASOの知識やABIの結果を活かして患者に関わっている看護師は68%であった。このことから今後、ASOの知識やABIの結果を活かした看護が行えるように、看護師教育も重要と考える。

6-結語

- 1.ASOの早期発見・治療には知識に基づいた看護が必要であり、また、スタッフ教育の充実が重要と考える。
- 2.ASOはQOLを著しく低下させるため、ASOの予防と早期発見が重要であり、患者へのASOに関する情報の提供が必要である。

引用・参考文献

- 1)波井康:外科的デブリメント後のケアの実際
透析ケアvol.7. 37~38 no.6 2001
- 2)寺本民生他:わかりやすい動脈硬化 2002
- 3)小澤利夫:脈波速度 メジカルビュー社 2002
- 4)熊田佳孝:フットケアはなぜ重要か
臨床透析 第31巻9号 2005

5)加納智美:フットケアのチームアプローチ 臨床透析 第31巻9号 2005